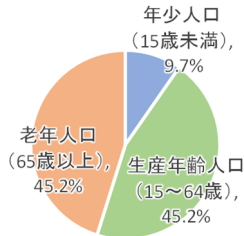


境 (さかい)

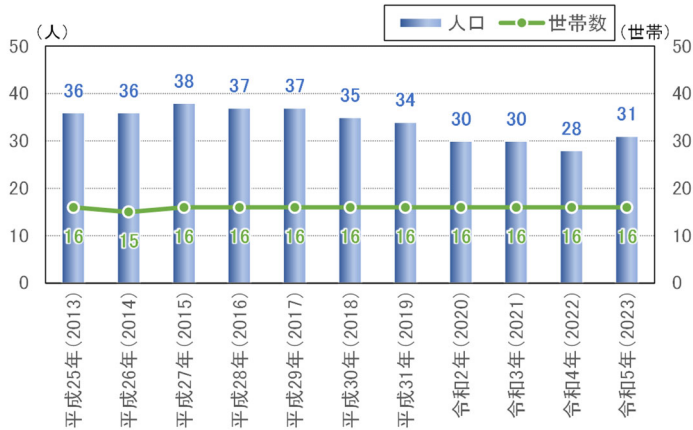
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	31人
世帯数	16世帯
高齢化率	45.2%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の周囲を山に囲まれた農山村で田畑は少ない。集落の中を久斗川が蛇行しながら北西流し、川に沿って県道山田新温泉線が走る。

地名由来 古くは村名を汗村と言った。あぜ(畦, 畔) やあそ(阿蘇) などと同じく、浅い・高い、崩壊地形などによる。「阿瀬」とも書く。「境」と改称するのは延宝2年(1764)頃である。江戸幕府が全国に国絵図の作製を命じた時、元禄10年(1697)「当村の儀は先年汗村と申し候えども、当御代(豊岡京極氏)にお断り申し上げ、境村と改め申し候」と述べている。境の地名は美含郡(久斗山)との境による。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 弘治3年(1557)の『但馬国にしかた日記』によると、中世には「みやま谷」と言ったようである。

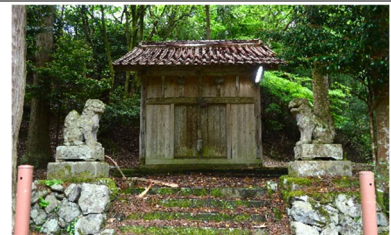
近世の境村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は29石余。枝郷に大味、奥大味があり、鉱山跡やたたら場跡が残る。

明治22年(1889)大庭村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数35、人口は男106・女85。

これまで把握している文化財

文化財の件数 14件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	0	
		石造物	1	0	
		工作物・その他の構造物	0	0	
	美術工芸品	彫刻	0	2	
		絵画	0	0	
		工芸品	0	0	
無形文化財		書跡・典籍	0	0	
		古文書・歴史資料・考古資料	1	0	
		音楽	0	0	
		演劇	0	0	
		工業技術	0	0	
	民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	0	0
			民具	0	0
			その他の有形の民俗文化財	0	0
		無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	3	6
			民俗技術	0	0
記念物	遺跡	食文化	0	0	
		民間説話・俗信	2	0	
		その他の無形の民俗文化財	0	0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	2	0	
		古墳・その他の墓	0	0	
	名勝地	城館跡・寺社跡	0	0	
		海岸・海浜・島嶼	0	0	
		河川・滝・渓谷・湖沼	2	6	
	動物・植物・地質鉱物	公園・庭園	0	0	
		その他の名勝地	0	0	
文化的景観	伝統的建造物群	動物	0	0	
		植物	2	0	
		地質鉱物	0	0	
		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



境神社



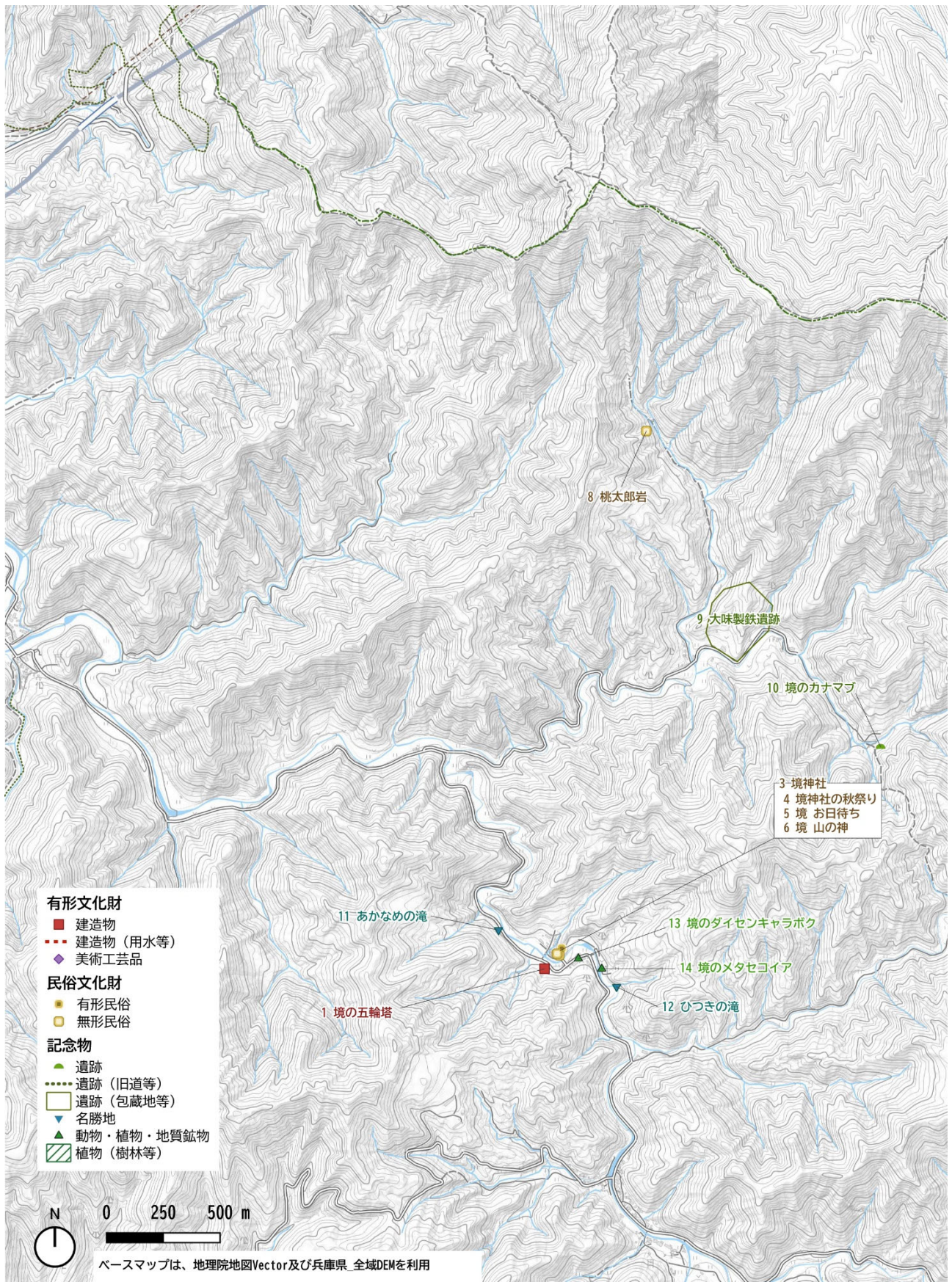
桃太郎岩



境のメタセコイア

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-18 境

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	境の五輪塔	字山根に位置する。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	2	境村区有文書	江戸時代のタタラ製鉄・山論争関係文書。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	3	境神社	祭神は須佐之男命、水分神。創立年月は不明。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。大正4年(1915)に濁淵神社(かつて出合下の小字濁淵にあった)を合祀する。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	4	境神社の秋祭り	10月1日に行われる。
	5	境 お日待ち	1月10日までの日曜日に行われる。
	6	境 山の神	2月9日に行われる。
民間説話・ 俗信	7	小宰相局の伝説	※『平清盛と源平合戦関連文化財群の調査検討』(平成24年、兵庫県教育委員会) p42 参照
	8	桃太郎岩	昔、凶作が続いて困り果てていた時に、この地を訪れた僧が、この岩はお宝の岩であるから割ってみるとよいと言って立ち去った。村人は岩の形から桃太郎話を連想し、作州の桃太郎産みの親「桃切り老人」に相談して割ってみることにした。腕利きの石工3人を作州から呼び、老人の指示のもとに切ると、岩は真二ツに割れ、お宝は輝き、甘汁が溢れだし村中の田畑は潤い、以来凶作は無くなったという。この岩は、坊主岩、お宝岩、桃太郎岩と呼ばれ、願い事が叶う岩として崇められている。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	9	大味製鉄遺跡	豊岡藩領の鉄山(たたら場跡)。主な操業時期は正徳3年(1713)頃。境から北東の谷に入り、1~2kmの所にある大味入口の山裾。多くのカナクソが掘り出され、善住寺過去帳にも「大味鉄山長太郎娘、外三名」と鉄山関係の人々の名が記されているため、タタラ場があったことが知られる。
	10	境のカナマブ	穴の長さ15mほどで、鉾石の採取跡と思われる。字ニレモトに位置する。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・ 溪谷・湖沼	11	あかなめの滝	久斗川の流域は屈曲した谷が続き、溪谷では早瀬や淵、所々で滝が美しい景観をみせる。あかなめの滝は、境村下流、左岸の狭い谷から急斜面を落下する二段の滝で、流紋岩の赤い岩肌を流れ落ちることから名付けられた。ひつきの滝は、境村上流、河川屈曲部の右岸に位置する。
	12	ひつきの滝	

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	13	境のダイセンキャラボク	イチイ科の木で、樹高が低く、枝が広がる斜上性のモノヲキャラボクと呼ばび、特に中国山地の最高峰大山を中心に分布するキャラボクをダイセンキャラボクと呼ぶ。民家の庭先に庭木として植えられたものであるが、時代を感じさせる古木である。
	14	境のメタセコイア	民家の庭先に植えられているメタセコイアの巨木。